

取扱説明書 : Ver 1.01

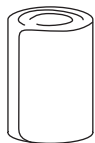
TP-660

リビングシェル ロング Pro.



このたびはスノーピーク製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。この製品はキャンプ用シェルターです。安全にご使用いただくためにも必ずこの取扱説明書をよく読んでからご使用ください。また、読み終わった後も大切に保管してください。製品には万全を期しておりますが、フィールドでご使用する前に安全な場所で組立、取扱い方法及び付属品の確認をしてください。説明内容で理解できない点及び製品に不具合が確認された際には、直ちに使用を中止しご購入いただきました販売店様もしくは弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

■ 各部の名称



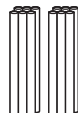
本体×1



リッジポール×1



Aフレーム×2



Cフレーム×2



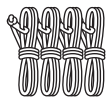
テントフレーム×1



アップライトポール
190cm×2



ジュラピン
ペグ×26



自在付ロープ
3.5m×4、7.0m×2
2.0m×4



シーム
グリップ剤×1



ペグ
ケース×1



フレームケース×1



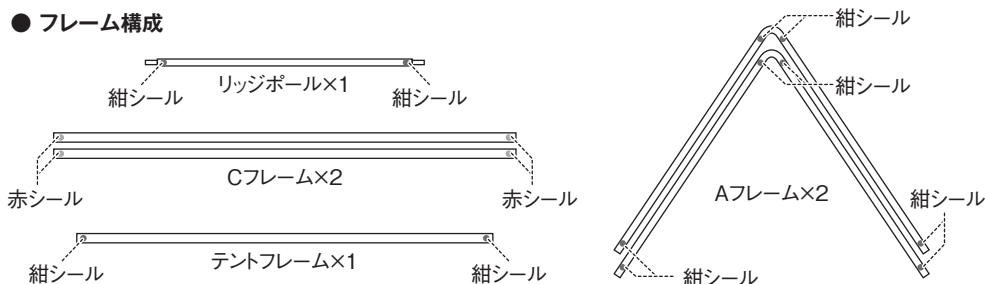
キャリーバッグ×1



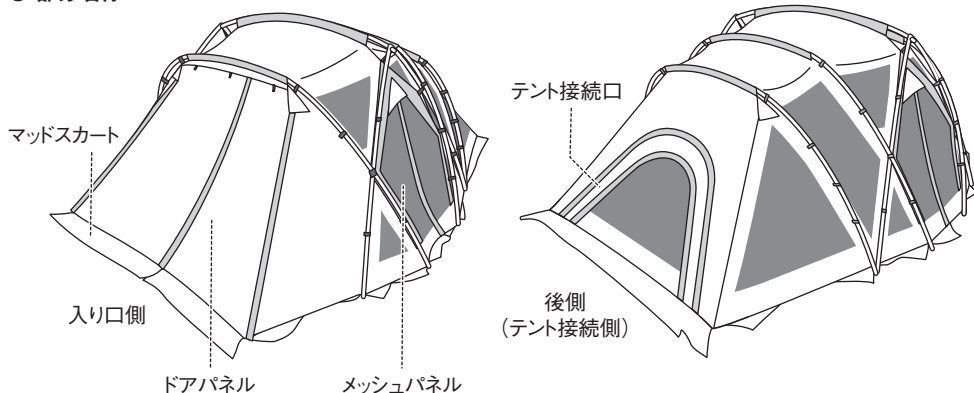
取説冊子(本書)×1

セット内容は一般的な条件下での設営を基本としたものです。頑丈で長めのペグや、ロープなどを用意されると、柔軟な対応が可能となります。ペグやロープ、自在などは消耗品ですので、常に予備を携帯することをお勧めします。

● フレーム構成



● 部分名称



ご使用前に よく読んで予測される事故を回避し安全にご使用ください。

⚠ 危険 明らかに生命にかかわる重大な事故が予測される行為を示します。

⚠ 警告 場合により重大な事故に至る行為を示します。

⚠ 注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

取扱上の注意

⚠ 危険 明らかに生命にかかわる重大な事故が予測される行為を示します。

- このシェルターの素材は難燃性ではありません。シェルター内では燃烧式のランタンやコンロ、ヒーターなどの熱源や、マッチ、ローソク、ライター、タバコなどの裸火や炎は絶対に使用しないでください。限られた空間での火気の使用は火災の恐れがあり大変危険です。
- シェルター内で燃料を保管したり、燃料を補給するなど、引火性のあるものを持ち込まないでください。



⚠ 警告 場合により重大な事故に至る行為を示します。

- 気象状況には常に細心の注意を払い、風の強いときや悪天候が予想されるときは速やかにキャンプを中止して安全な場所へ避難してください。
- 高温に加熱されたものや発熱性のあるものを持ち込まないでください。天候によりテント内は高温になり、熱中症などの危険があります。お子様の昼寝の際など、最新の注意を払ってください。
- 風の吹き抜けるような場所や、雪崩、がけ崩れ、急な出水などの恐れのない地盤のしっかりとした、水はけの良い平坦な場所を選んで設営してください。



⚠ 注意 ケガや本体破損、物品破損として拡大損害の原因となる行為を示します。

- 本製品は常設用ではありません。
- 日差しにより本体表面は低温やけどに発展するほどの高温になります。十分ご注意ください。
- たき火や花火などのそばで組み立てたり、使用しないでください。火の粉を被り、生地に穴を開けてしまう場合があります。
- シェルターの設営・撤収の際は、風に飛ばされないようフレームをしっかりと支えて作業してください。フレーム先端のハネ返しなどで思わぬ事故に繋がる恐れがありますので必ず周囲の安全を確認してください。
- ペグや張り綱でしっかりと固定して使用してください。
- テント素材は長時間日光にさらされた場合、退色や生地劣化などの強度低下を起こしますので、常設用として使用しないでください。

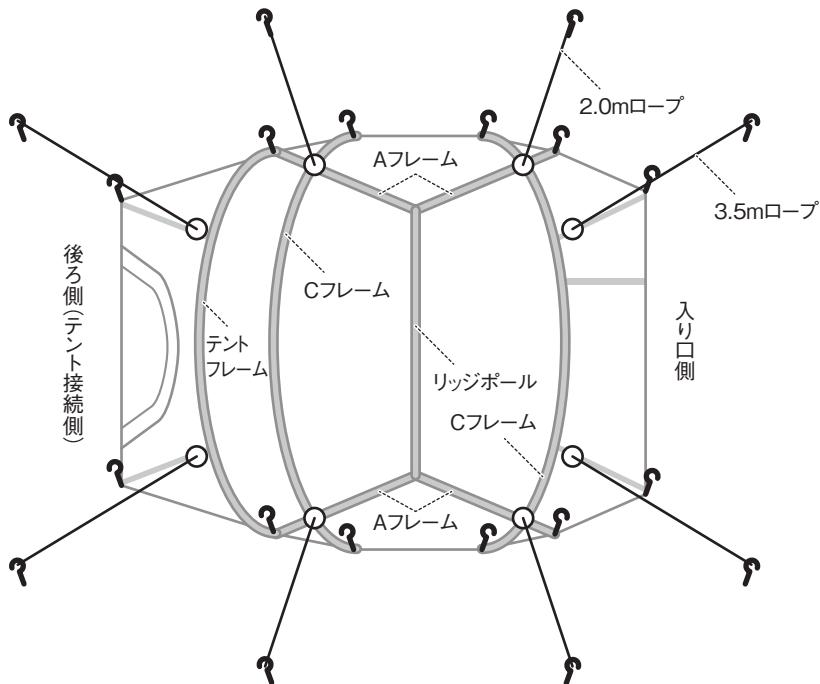
使用前の準備

● シームグリップ剤による目止め

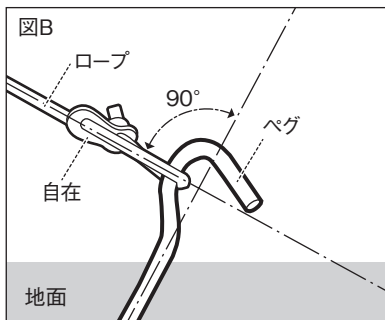
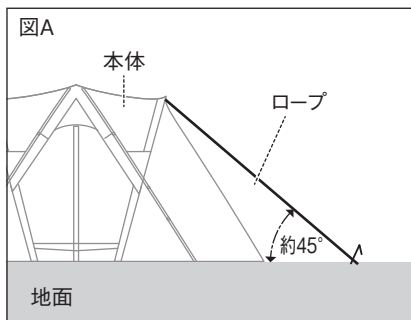
縫製部分にはシームテープによる防水処理が施してありますが、ループやトグルを縫い留めている縫製部、ファスナーフラップを縫い留めている縫製ライン等は、製造の都合上または構造上、シームテープが施せない部分があります。通常の雨には十分対応できますが、長時間の大雨や横なぐりの雨、地面に雨水が溜まっているような状態では、縫い目から雨水が浸入することがありますので、必要に応じて縫い目にシームグリップ剤(目止め液)を塗布してください。シームグリップ剤は時間とともに硬化していきます。剥離した時は塗布しなおしてください。指定以外の場所から侵入した場合は、必要に応じて目止めを行ってください。

● 張網(自在付ロープ)、ペグダウンの位置

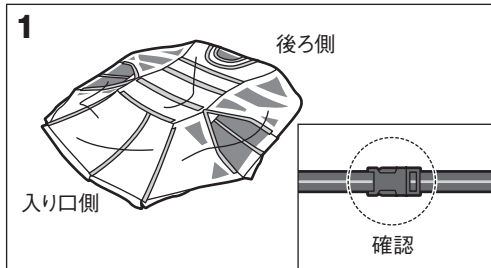
張網の固定、ペグダウンは下図のように行ってください。



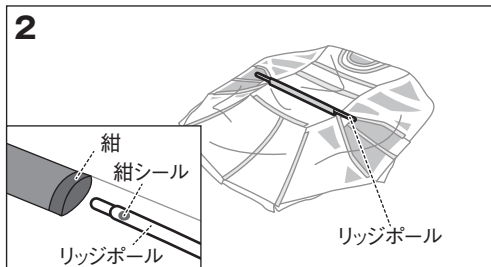
ペグダウンはシェルターからできるだけ遠くに行ってください。設営したとき、ロープの角度が地面に対し約45°となるのが理想的なペグダウンの位置です。〔図A〕また、ペグを打ち込む角度はロープに対して90°になるようにペグダウンします。〔図B〕



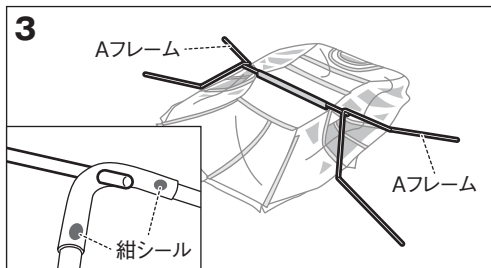
設営 設営は必ず2人以上で行ってください。



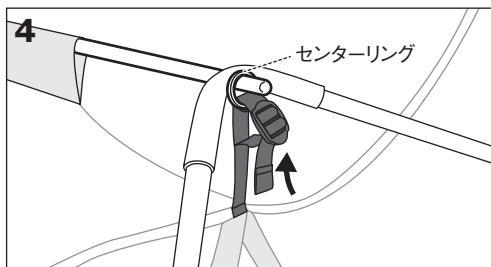
本体を広げます。
本体を広げます。入り口側、後ろ側の向きを考慮してください。このとき、ビルディングテープのバックルがきちんと留まっていることを確認してください。



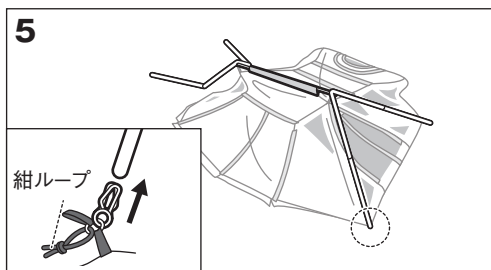
リッジポールをスリーブへ差し込みます。
フレームは各ジョイントが確実に差し込まれていることを確認してください。スリーブに差し込む際は、フレームを「押し入れて」ください。引っ張ると各ジョイントが抜けますのでお止めください。



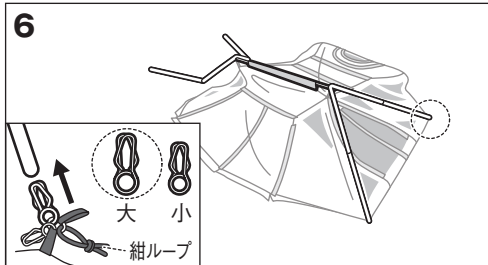
Aフレームをリッジポールに接続します。
Aフレームに付いている紺紺シールが外側に向くようにリッジポールを差し込みます。リッジポールの先端が最後までAフレームに差し込まれている事を確認してください。このとき、Aフレームを半分くらいの高さまででジョイントしておく、後行程がスムーズに行えます。



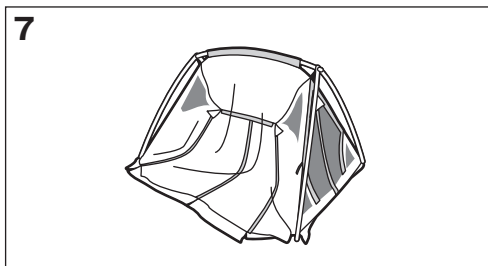
センターリングを突き出たリッジポールに掛けます。
本体に付いているセンターリングを、Aフレームから突き出たリッジポールに掛けます。このとき調整ベルトを緩めておいてください。



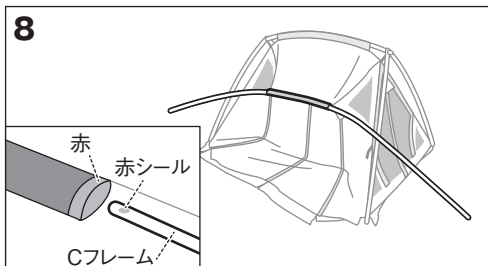
Aフレームを全てジョイントし、入り口側のピンを差し込みます。
Aフレームの先端に本体ボトム部(入り口側)の紺紺ループが付いたピンを差し込みます。フレームとピンとの間に指を挟まないよう気をつけてください。



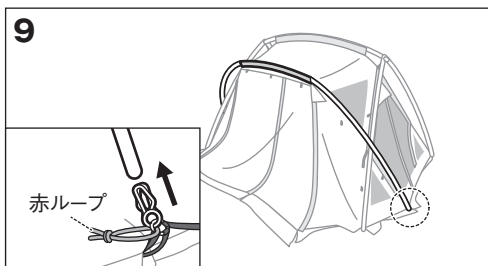
Aフレームに後ろ側のピンを差し込みます。
Aフレームの先端に本体ボトム部(後ろ側)の紺ループが付いたピンを差し込みます。ピンは大小2種類ありますが、大きい方を差し込んでください。フレームとピンの中に指を挟まないよう気をつけてください。



もう一方のAフレームにもピンを差し込み、本体を立ち上げます。
もう一方のAフレームを全てジョイントし、「5」「6」同様にピンを差し込み、本体を立ち上げます。このとき、Aフレーム端部をしっかりと動かないようにおさえてピンを差し込んでください。無理に持ち上げると反対側に荷重がかかり、フレームが破損する恐れがあります。



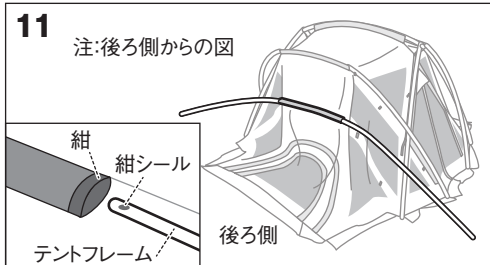
Cフレームを入り口側のスリーブに通します。
フレームは各ジョイントが確実に差し込まれていることを確認してください。スリーブに差し込む際は、フレームを「押し入れて」ください。引っ張ると各ジョイントが抜けますのでお止めください。このときCフレームがAフレームの外側になるように通してください。



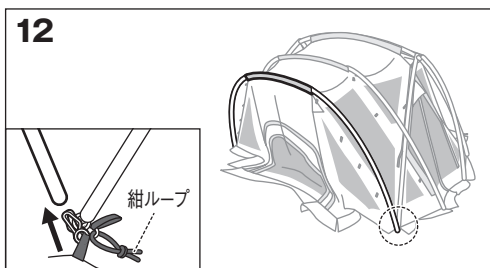
Cフレームにピンを差し込みます。
Cフレームの先端に本体ボトム部の赤ループが付いたピンを差し込みます。フレームの両端にそれぞれピンを差し込んでください。フレームとピンの中に指を挟まないよう気をつけてください。



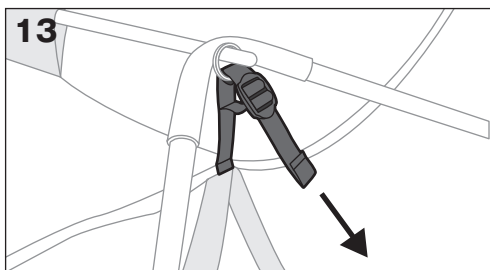
もう一方のCフレームにもピンを差し込みます。
もう一方のCフレームの先端に本体ボトム部の赤ループが付いたピンを差し込みます。フレームの両端にそれぞれピンを差し込んでください。フレームとピンの中に指を挟まないよう気をつけてください。



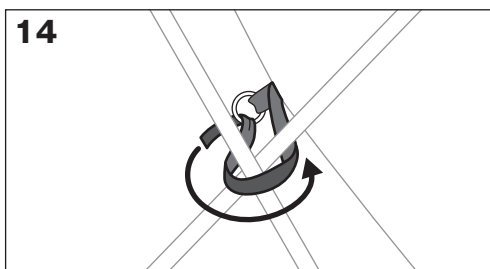
本体後ろ側にあるスリーブに
テントフレームを通します。
フレームは各ジョイントが確実に差し込まれていることを
確認してください。スリーブに差し込む際は、フレームを
「押し入れて」ください。



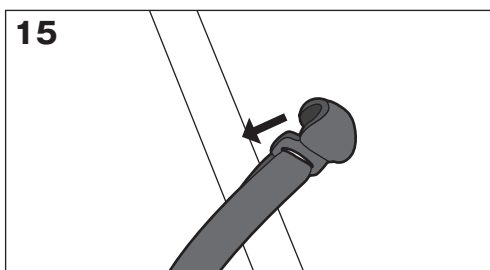
テントフレームの先端に本体ボトム部の紺ループが付いた
ピンを差し込みます。ピンは大小2種類ありますが、
残った小さい方を差し込んでください。フレームとピンの
間に指を挟まないよう気をつけてください。



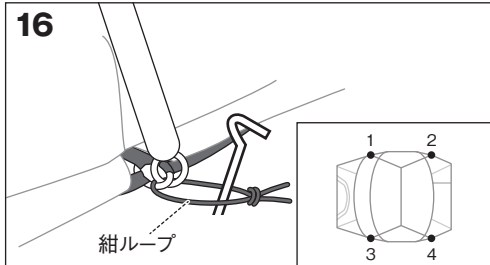
センターリングのベルトを引き、調整します。
[4]でリッジポールに掛けたセンターリングのベルトを引
き、調整します。



AフレームとCフレームの交点を
ベルクロで留めます。
AフレームとCフレームの交点を本体に付いているベル
クロで留めます。このとき、2本のフレームを束ねるよう
にベルクロを通します。

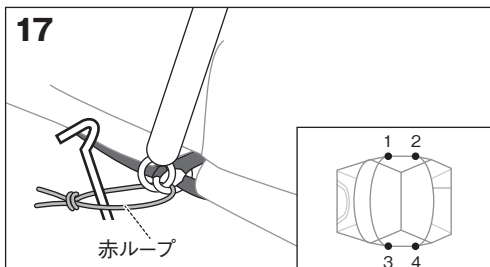


本体に付いているフックをフレームに掛けます。
フライシートに付いているフックをそれぞれ本体フレーム
にかけます。このとき、上の方から順にフックを掛けて行
くと作業がスムーズです。



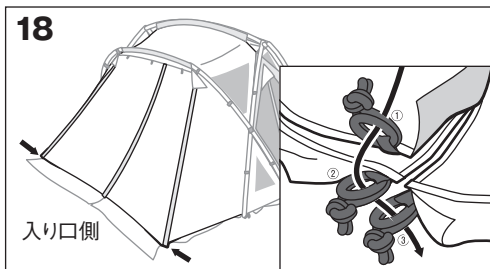
紺ループをベグダウンします

本体ボトム部分4カ所にある「紺」のループをベグダウンします。ベグダウンの位置は3ページの「張網(自在付ロープ)、ベグダウンの位置」に従ってください。



赤ループをベグダウンします

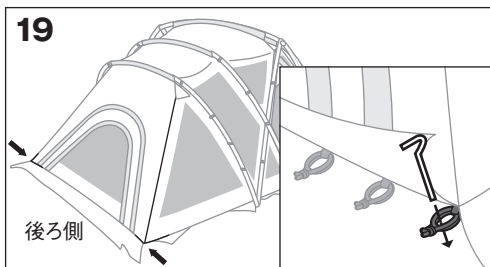
本体ボトム部分4カ所にある「赤」のループをベグダウンします。ベグダウンの位置は3ページの「張網(自在付ロープ)、ベグダウンの位置」に従ってください。



ドアパネルのボトム部分をベグダウンします。

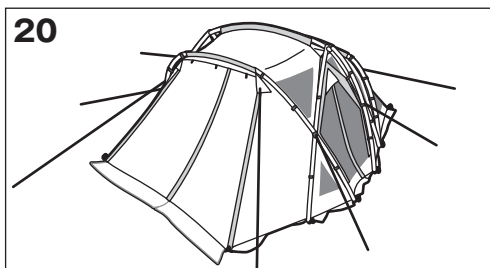
ドアパネルのボトム部分にあるゴムループをベグダウンします。(4カ所)

その際、上から①ドアパネル(大)、②メッシュパネル、③ドアパネル(小)の順でベグを通してください。ベグダウンの位置は3ページの「張網(自在付ロープ)、ベグダウンの位置」に従ってください。



後ろ側のボトム部分をベグダウンします。

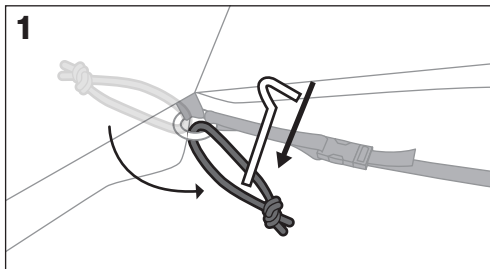
後ろ側のボトム部分にあるゴムループをベグダウンします。ゴムループは片側3つありますが、一番外側のゴムループをベグダウンしてください。ベグダウンの位置は3ページの「張網(自在付ロープ)、ベグダウンの位置」に従ってください。



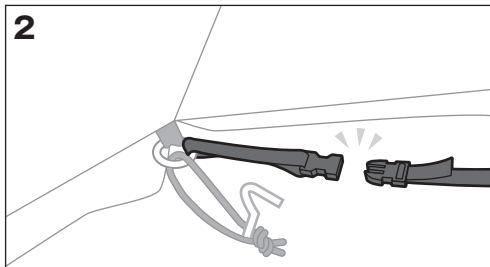
張り網をベグダウンし、全体を調整して設営完成です。

ベグダウンの位置は3ページの「張網(自在付ロープ)、ベグダウンの位置」に従って、張り網をベグダウンし、最後に全体を見て、調整ベルトの締め具合やロープの引き具合などを調整して、設営の完了です。

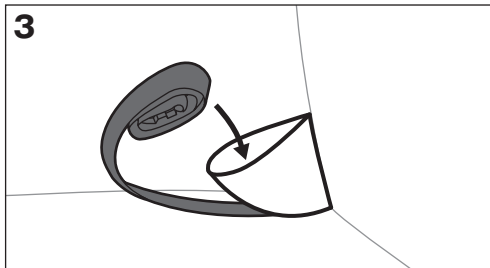
ビルディングテープを外す場合



ペグダウンの位置をシェルター内側へ打ちかえます。シェルター外側にペグダウンしたペグを内側へ打ちかえます。ビルディングテープを外した際、シェルターが外側へ広がるのを防ぐためです。



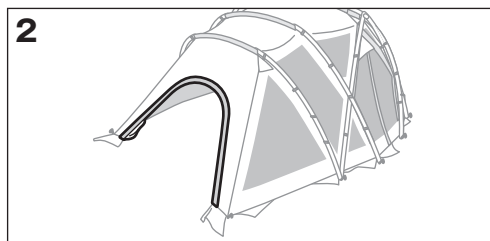
ビルディングテープを外します。ペグを内側へ打ちかえた事を確認し、ビルディングテープを外します。



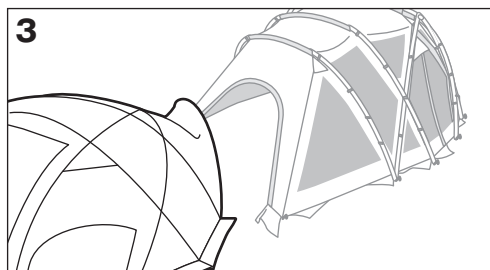
ポケットへ収納する
外したビルディングテープは丸めて、収納ポケットへ入れます。

テントとの接続方法

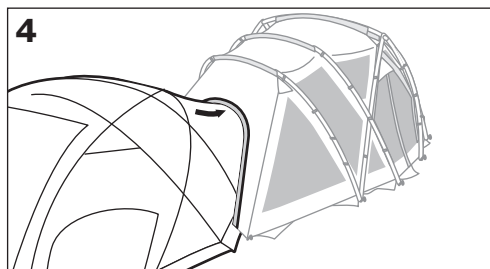
<p>1</p> 	<p>接続するテントに応じて、 巻き上げるパネルを確認します。 接続口となるパネルは2種類あります。 ランドプリーズ6の場合は大きいパネルを、ランドプリーズ4の場合は小さいパネルを使用します。 ※以下、ランドプリーズ6の場合として手順説明をしますが、要領は同じです。</p>
<p>SD-636 ランドプリーズ6 SD-507 ドッグドームPro.6 SD-507IV ドッグドームPro.6 アイボリー SDE-001RH アメニティドームM SDE-003RH アメニティドームLの場合</p>	<p>SD-634 ランドプリーズ4 SDE-002RH アメニティドームSの場合</p>



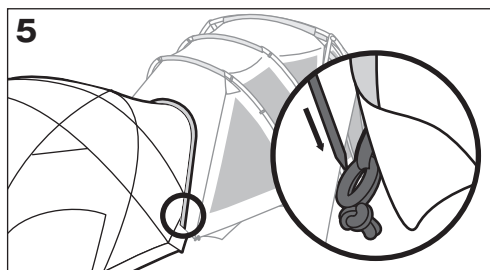
接続口となるパネルを巻き上げます。
接続するテントに応じてパネルを巻き上げます。



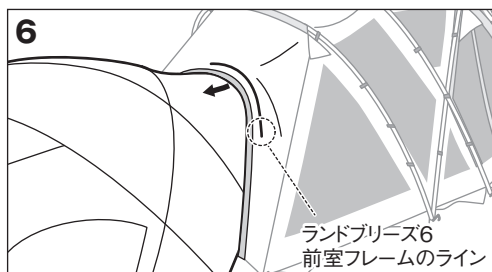
ランドプリーズ6を立ち上げた状態
状態で準備します。
ランドプリーズ6を立ち上げた状態(ベグダウンはしません)で準備します。



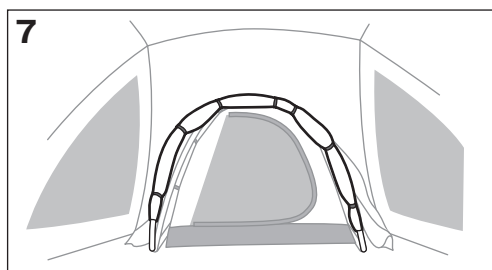
ランドプリーズ6の前室フレーム部
を入れます。



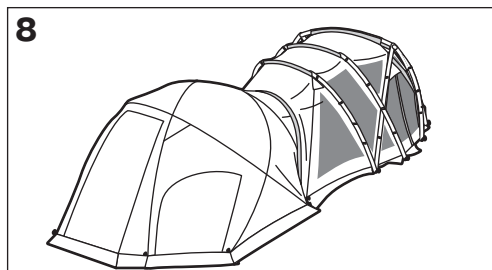
シェルターの接続口両端の
ゴムループをベグダウンします。
パネルの大きさに応じたゴムループをベグダウンしてください。



ランドブリーズ6を後ろへ引いて調整します。
ランドブリーズ6の前室フレームのラインが少し浮き出るくらいが目安です。
※強く引きすぎると接続口から前室部分が外れますので少しづつ力を加えてください。

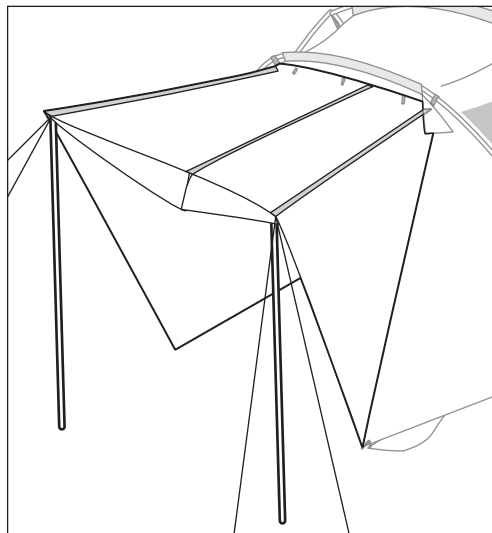


シェルターの中に入り、ランドブリーズ6の前室を巻き上げます。



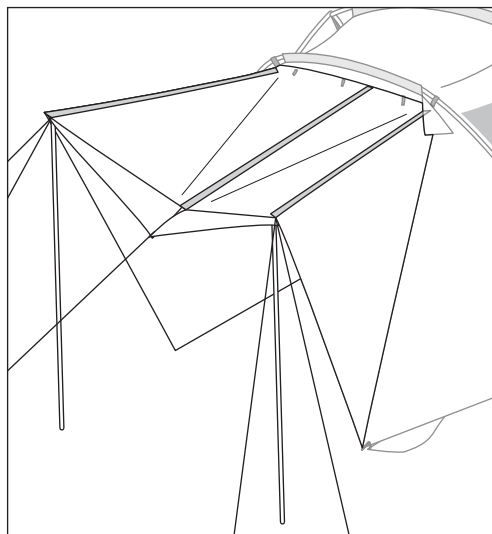
ランドブリーズ6をペグダウンし、
全体を調整して完成です。
ランドブリーズ6をペグダウンし、最後に全体を見て、調整ベルトの締め具合やロープの引き具合などを調整して、接続の完成です。

その他の使用方法



ドアパネルのハネ上げ

ドアパネルは付属のアップライトポールを使用してハネあげることが可能です。



雨水溜まり対策

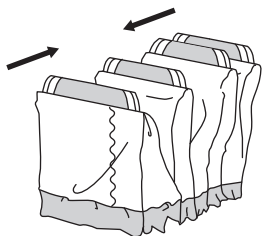
ドアパネルのマッドスカートに付いているグロメットにロープを通します。そのロープをベグダウンし、パネルを下げる事で雨水が溜まるのを軽減します。

撤収について

撤収は設営と逆の手順で行いますが、インナーテントを取付けた場合は、必ずインナーテントをフライシートから取り外して収納してください。

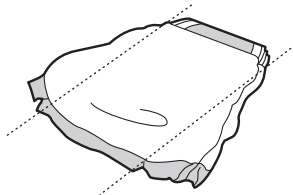
収納方法

1



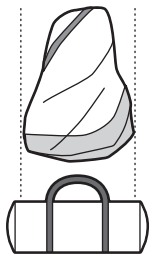
フレームを抜き、スリーブを頂点として畳みます。

2



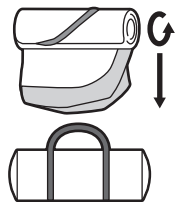
スリーブ部分を残して畳みます。

3



キャリーバッグの幅に合うまで折りたたみます。

4



丸めて収納します。
空気を抜きながら丸め、キャリーバッグへ収納します。

結露について

空気中に含まれている水分が急激に冷やされて霧状になったものが結露として現れます。特に狭いテント等の空間では、通常の室内よりも水蒸気の濃度が高くなり、結露の発生する確率が高くなります。原因としては、人体構成要素の約60%を占める水分が、呼吸や汗などにより放出され、水蒸気となりテント内に結露が発生します。テント内では、特にフライシート・ボトム部分などの防水性能が高い部分に結露が発生しやすくなります。結露は優れた透湿防水素材でも使用状況により完全に防ぐことは不可能です。ご使用中は結露軽減のために適時換気を行ってください。

撥水・防水性能について


- 本製品はいずれの生地にも高性能の撥水加工を施していますが、生地の特性上、撥水性能(撥水の仕方や耐久性)に若干の差が見られる場合があります。また、ご使用を重ねますと撥水性能が低下する場合があります。性能が低下した場合は市販の撥水スプレー等を、それらの説明書をよくお読みの上ご使用ください。
- 防水性の高い生地を使用しておりますが、地面の水溜りなどへ長時間接触していると雨水が浸み込む場合があります。
- 農薬などでPUコーティングが破壊され耐水圧が異常低下してしまう場合があります。この症状と判断された場合、製品の保証が出来なくなりますのでご注意ください。
- 撥水剤の影響によりロゴマークが剥離する場合があります。

紫外線の影響について

- 本製品にはルーフの生地にもUVカット加工を施しています。UVカット加工は、人体にとって有害な紫外線の透過を抑えると共に、生地への強度劣化を緩和します。

※UVカット加工は、紫外線による人体への影響や、素材劣化を防止するものではありません。

メンテナンス・保管

- 本製品はポリエステル生地を組み合わせて使用しています。生地の特性を考慮し、できる限り色移りし難い加工と配色パターンを採用していますが、保管状態などにより、色移りが発生する場合があります。ご了承ください。また、濡れたままの保管は避けてください。
- 濡れたまま保管すると、カビや悪臭、生地の色移り、生地の劣化などのトラブルの原因になりますので、使用後は風通しの良い日陰で十分に乾燥し、柔らかいブラシなどで泥汚れを落とししてから保管してください。
- フレームを通した状態のまま逆さまにしないでください。フレーム折損や生地損傷の原因になります。
- フレームは表面の汚れを落とし、十分に乾燥させてから保管してください。濡れたまま保管すると腐食、強度が低下します。ジョイント部分は常に清潔にし、少量のシリコン系潤滑剤を薄く塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。また、フレーム内部のショックコードは不必要に引っ張らないでください。
- フレームを収納する際は、中央を意識しながら折り畳んでください。
- 高温多湿を避け、直射日光の当たらない風通しのよい場所に保管してください。
- ファスナーに泥や砂、ホコリなどが付着したまま使用すると摩耗し破損の原因になりますので、ブラシなどを常に清潔にしてください。また、スライダーの動きを滑らかにするために、少量のシリコン系樹脂剤を定期的に塗布してください。塗布し過ぎると生地に油ジミができますのでご注意ください。
- 小さな生地の破損は市販のリペアテープで補修できます。補修の際はリペアテープの説明書をよくお読みください。
- ご使用により広範囲にわたり素材が劣化し、耐久度合を超えたものは修理できない場合があります。
- 次の使用に備え、張り綱などの付属品も含め、十分に保守・点検をしてください。
- シームテープはPUコーティングが痛まない程度の温度設定で圧着されていますが、使用を重ねるにしたがい剥離してしまう場合があります。剥離が確認された場合は、アイロンを低温に設定し、剥離箇所のみを再度圧着してください。熱を掛け過ぎた場合生地が変色したり劣化が促進されますのでご注意ください。シームテープは無理やり剥離させないでください。PUコーティングと一緒に剥離された場合、修理できなくなる可能性があります。
- 樹液が付着してしまうときれいに除去することはできません。樹液が垂れそうな木の下を避けて設置してください。溶剤などにより無理に除去すると生地やコーティングを傷めます。
- 使用する際にフレームが折れてしまった場合は、応急処置として速やかに添え木をあて、ビニールテープなどで固定するか、撤収をしてください。

品質保証について

お買い求めいただきました製品は万全を期してありますが万一不備な点がございましたら、お買い求めの販売店または弊社までご連絡ください。製造上の欠陥が原因の場合は無償で修理または交換させていただきます。その他の場合は適正な価格で修理させていただきます。修理・交換の判断は弊社の裁量によるものとさせていただきます。また、以下の場合は保証、修理できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

1. 取扱説明書に従わなかったと判断した場合。
2. 素材の経年劣化による製品の寿命。
3. 改造及び粗雑な扱いによる製品の故障。
4. 不測の事故による製品の故障。
5. その他製造上の欠陥以外による製品の故障。
6. ゴミやサビによる故障。
7. 分解したことによる不具合の発生または破損。
8. 落下やその他の衝撃による部品の変形や破損による不具合。
9. 消耗品の劣化、破損、故障及び付随する不具合。
10. 他社製品との組合せによる故障。

修理について

- 本格的な修理が必要な場合は、お買い求めになった販売店または弊社ユーザーサービス係までお問い合わせください。
- 修理を依頼される場合は、必ず十分に乾燥させ、汚れをきれいに落としてください。
- 修理品には修理箇所がはっきりと解るように、必ずメモまたは荷札を付けてください。また破損時の状況をできるだけ詳しく書いたメモを添えてください。
- 修理品の運賃並びに修理費については以下のように規定させていただきます。
 - 1.保証対象の場合：往復運賃並びに修理費は弊社にて負担いたします。
 - 2.保証対象以外の場合：往復運賃並びに修理費は、お客様のご負担とさせていただきます。

スペック

●セット内容: 本体、リッジポール、Aフレーム(×2)、Cフレーム(×2)、テントフレーム(×1)、アップライトポール190cm(×2)、ジュラビンベグ(21×26)、自在付ロープ(3.5m×4、7.0m×2、2.0m×4)、シームグリップ剤、ベグケース、フレームケース、キャリーバッグ、ビルディングテープ、取扱説明書

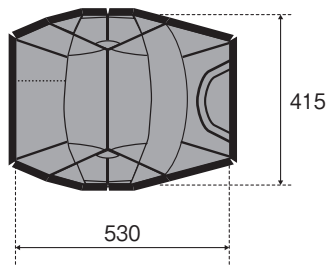
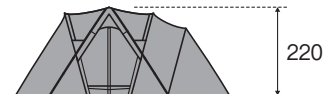
●材質: 本体(フライ) / 150Dポリエステルオックス・遮光ビグメントPUコーティング耐水圧3,000mmミニマム(ルーフ部)・耐水圧1,800mmミニマム(ウォール部)・テフロン撥水加工・UVカット加工、フレーム / A6061(φ16mm・19mm)

●キャリーバッグサイズ: W80×D28×H30mm

●重量: 18.6kg

●カラー: グレー×エンジ

単位はcm



不明な点やお気付きの点がございましたら、販売店様または弊社ユーザーサービスまでお問い合わせください。

スノーピークユーザーサービス

 **0120-010-660** (9:00~17:00)

Email: userservice@snowpeak.co.jp

株式会社スノーピーク

〒955-0147 新潟県三条市中野原456

Tel. 0256-46-5858 / Fax. 0256-46-5860

www.snowpeak.co.jp

MADE IN CHINA